

3. 学生の研究事例

「艦これ」の世界観

- 右翼左翼にとられない自閉的な世界
- 「自己犠牲の否定と生の肯定」
→沈没した艦船は二度と復活しない
- 深海棲艦が日本の戦死者を表す
- 「二〇一四年の日本人は、空想の世界で戦艦大和を女神に仕立て上げ、怒れる戦死者たちを化け物＝深海棲艦とみなして殺してもらうことで、悲惨な戦争を物語化し、自らの欲望充足のため消費しているという後ろめたさを解消して生きています。」(一ノ瀬 戦艦大和講義)

http://www.bing.com/images/search?hp=...&from=ipsc&fromipsc=1&fromipscid=1&fromipscurl=http://www.bing.com/images/search?hp=...&from=ipsc&fromipsc=1&fromipscid=1&fromipscurl=http://www.bing.com/images/search?hp=...



日本人の戦争観
サブカルチャーに表出する戦争のイメージ「艦これ」

足立裕子 久保洋子(林ゼミ)

http://www.bing.com/images/search?hp=...&from=ipsc&fromipsc=1&fromipscid=1&fromipscurl=http://www.bing.com/images/search?hp=...&from=ipsc&fromipsc=1&fromipscid=1&fromipscurl=http://www.bing.com/images/search?hp=...

2、戦後日本の戦争観

- 敗戦の衝撃からの立ち直り (吉田)
- 日本の誇りを回復したいという欲望の投影(一ノ瀬)
- 戦死者を意図的に捨象(一ノ瀬)
- 日本技術へのプライド(一ノ瀬)
- 歴史の組み換えによる日本の正当化

⇒「艦これ」はその流れを汲む



http://www.bing.com/images/search?hp=...&from=ipsc&fromipsc=1&fromipscid=1&fromipscurl=http://www.bing.com/images/search?hp=...&from=ipsc&fromipsc=1&fromipscid=1&fromipscurl=http://www.bing.com/images/search?hp=...

4、艦これが日本社会に与える影響

- 軍艦、兵器が好きになる
- 軍事知識に詳しくなることで戦争への神話性が高まる
- 戦争を考えるきっかけになる
- 敵愾心を煽る
- 軍艦に憧れを持つようになる
- 軍艦の沈んだ場所に行きたい
- 軍隊組織を持ちたくなる
- 兵士にあこがれる



旧海軍や自衛艦を誇らしく思う
自己のナショナリズムが刺激される

艦これがこれからの日本社会に
与える影響とは？

4、平和ツアー企画作り

- 摩擦の極力少ないプロジェクト
 - アメリカ人一家がホームステイ
 - 日本の平和主義を米国人に理解してもらう旅を企画せよ。

学生の研究事例2

平和学習ツアー in japan

文学部人間学科 3年

agenda

Concept : 日米親善協会の方針

Plan: 旅の行く末

Detail: 旅の詳細

Cost: 費用の詳細

Concept: 日米親善協会の方針

国境を越えお互いの文化を理解し合い、友好の輪

Learn Enjoy

Learn ・日本の戦争変遷を知ることによって戦争の恐ろしさを共有する

Enjoy ・これからの日本とアメリカの関わりに関して考える機会
・日本文化を共に体験することで個人間の親交を深める

agenda

Concept : 日米親善協会の方針

Plan: 旅の行く末

Detail: 旅の詳細

Cost: 費用の詳細

Plan: 旅の行く末

計15日8月1日～15日

始発 沖縄 長崎 広島 東京 終点

Learn Enjoy

議論を重ねる中で

- ・ 学生時代から続くゼミ対抗での研究大会
- ・ 院生時代の自由な議論の場
 - 大学の枠を越えての議論
 - ・ 学部を越えての議論
 - ・ 次第に高まる学部・学科の壁
 - 本音と建て前・次第に目立つ学生の自己規制
 - 困難になる「共通テーマ」の設定

龍谷大学「ゴジラ」研究・シンポジウム「ゴジラ」研究報告書
 1. 多数の専攻科を横断的につなく限界
 2. 回数を重ねることに失われる個性
 3. 議論の不活性化
 4. 留学生が懸念する「敏感な問題」

自由な討論を行うには？


- 平和ツアーの設計
 - 広島・沖縄
 - 米軍基地への関心
- インナーゼミからゴジラ・プロジェクトへ
 - 艦コレ：安全保障の議論からの開放
 - ゴジラ怪獣が象徴する原子力・核問題に対する自由な議論の出発点
- 自由を求めて歴史から物語へ
 - テーマについての課題
 - 出来るだけ自由な議論を求める
 - 学生に内在する本音と建て前
 - 敏感な問題を回避する方法

4, ゴジラ・プロジェクト

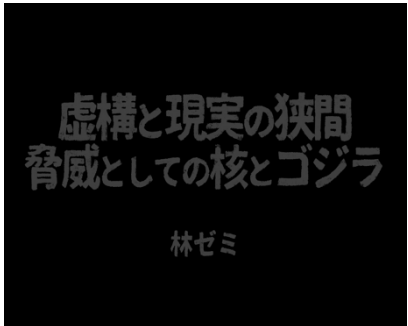


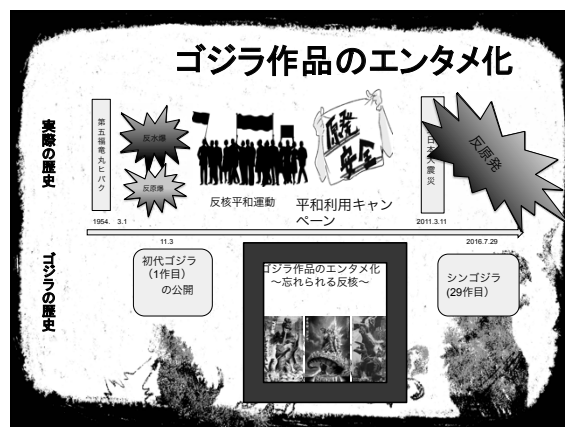
バーチャル世界で行われる議論

- ゴジラ：
 - 原爆と原子力の脅威の象徴
 - 自衛力行使のシュミレーション
- 艦コレ
 - 第二次世界大戦をテーマとした戦争の歴史
 - 自衛隊戦力の自由な再評価
- 物語の世界ゆえの自由な研究と議論
- 防衛装備庁のシンポで東大教授が「ゴジラ」



学生の報告事例





5. 効果

- 艦コレ担当者は、卒論テーマに「特攻を決めたのは誰か？」
- 「虚構と現実の狭間」で担当者は、「グローバル被爆者」の概念を巡って教員と議論
- 幹部自衛官とのディスカッション
 - 国防の志は何時立てたのか？
 - 自衛官の実態を理解

戦争と平和を自由に語る環境

- 安全保障と核に敏感な中国人留学生
- 政治に自主規制をかける日本人と留学生
- 戦争と平和を自由に語る「環境」
- 虚構と現実の狭間＝ゴジラ・艦コレなど
- 映画とゲームを舞台に戦争と平和を語る。

ご静聴ありがとうございます。

• 創価大学文学部 林 亮